

2022年3月31日

## 2021年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 みたか・みんなの広場運営協議会

代表者・役職名 氏名 成清 一夫



### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

「三鷹の高齢者お役立ちハンドブック(改訂版)」の増刷

### 2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

三鷹の高齢者及び高齢者グループが、協力して高齢者問題に取り組むことを目的に、2012年2月に設立した。その後、「高齢者自身が当事者として考え、行動し、発信する」ということで、講演会やサロン活動等に取り組んできた。現在、5団体80名ほどのメンバーで活動をしている。

### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

2020年1月に「三鷹の高齢者見守りハンドブック」を制作して2月から配布を始めた。反響としては、「在宅医療や支援サービスの情報は今までまとまった情報を目にする事がなく、あれこれと思い巡らせながら読ませていただきました。」というような想定以上の評価をいただくことができた。

### 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

2019年度貴プロジェクトのほか2つの助成金をいただいて、「三鷹の高齢者お役立ちハンドブック」を作成した。8,000部の印刷は、市や社協、包括支援センター等へ半数強、そのほか、当方の関係先に配布し、残部が150部ほどとなった。最近でも、必要な方々からの希望があったり、当方が新しく接点を持った方への配布やイベントでの必要性もあり、今後のために増刷をしたい。

### 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

ハンドブックの内容は、基本的に第一版の踏襲であるが、市民や行政による支援サービスについては全面的な見直しを行い、修正した。ハンドブック完成後、社協や包括から要請もあり、100部単位で寄贈することができ、当団体が目的としている、「高齢者自身の自立への意識づけ」にも効果があったと考えている。特に、新しく活動を開始した認知症当事者の会合等でも配布し、市内での広い地域の高齢者やグループにも配布することができたことは、当方と各地域のみなさんとの連携を深めることになったと考えている。

### 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

ハンドブックは、情報提供としての効果は大であったが、今後、「高齢者の声」を取り上げて高齢者同志の意識の共有を図る、ことができないかと考えている。特に、認知症当事者の仲間づくりと当事者発信で認知症のある人だけでなく、高齢者さらに若いみなさんまで含めて、問題の共有化を図ることができればと考えている。

### 7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、「必ず」、別途、ご提供ください。